



インテル® Parallel Studio XE 2017

Linux* インストール・ガイド

2016年7月15日

内容

1	概要	2
1.1	ライセンス情報	2
2	必要条件	2
2.1	クラスター・インストールの注意事項	3
2.1.1	インストール方法の選択	3
2.1.2	セキュアシェル接続の確立	4
3	インストール	5
3.1	オンライン・インストーラー	5
3.1.1	ダウンロードされるコンテンツの格納	6
3.2	CLI (コマンドライン・インターフェイス) インストーラー	6
3.3	GUI (グラフィカル・ユーザー・インターフェイス) インストーラー	7
3.4	サイレント・インストール	9
3.4.1	対話型インストールの設定の使用	9
4	インストール先フォルダー	9
5	インストール後のステップ	11
5.1	入門ページ	11
5.2	クラスターの設定の確認	11
6	製品のアンインストール	12
7	インストーラーのオプション	12
8	著作権と商標について	13

1 概要

このドキュメントでは、Linux* システムにインテル® Parallel Studio XE をインストールする方法について説明します。製品は、コマンドラインから、またはグラフィカル・ユーザー・インターフェイス (GUI) を使用してインストールできます。所有しているライセンスに応じて、インストーラーは以下のいずれかのエディションのインストールを実行します。

- インテル® Parallel Studio XE Composer Edition
- インテル® Parallel Studio XE Professional Edition
- インテル® Parallel Studio XE Cluster Edition

各エディションの内容の違いは、リリースノートを参照してください。

Linux* システムにインテル® Parallel Studio XE をインストールするには、次のインストール方法を使用できます。

- **オフライン・インストーラー** – 製品のすべてのコンポーネントが含まれているパッケージ。
- **オンライン・インストーラー** – 製品の指定したコンポーネントのみダウンロードしてインストールする小さなインストール・ファイル。インストーラーはインストールの前にコンポーネントをダウンロードするため、オフラインモードで (または別のマシンに) に製品をインストールできます。

インテル® Parallel Studio XE インストーラーは、インストール・プロセスを開始したホストシステムのインテル® アーキテクチャーに基づいて、インストール・アーカイブから適切なバイナリー、スクリプト、テキストファイルを自動的に選択します。そのため、ソフトウェア・コンポーネントの選択に関して心配する必要はありません。

1.1 ライセンス情報

バージョン 2016 から、インテル® ソフトウェア開発製品 EULA (<install_dir>/parallel_studio_xe_<version>.x.xxx/licensing にある EULA.txt) の特定ユーザーライセンスの条項が、ソフトウェアのインストールを最大 3 台のシステムで許可するように変更されました (システムのホスト ID により追跡されます)。この制限に達した後、別のシステムに製品をインストールするには、登録システムからシステムのホスト ID を解除する必要があります。

この変更およびライセンス設計のいくつかの変更に伴い、インテル® Parallel Studio XE を使用するには、最新ライセンスが必要になります。詳細は、[こちら](#) (英語) を参照してください。この件に関するご質問や懸念事項は、[テクニカルサポート](#) (英語) までお問い合わせください。

ライセンスについて質問がある場合は、[Licensing FAQ](#) (英語) を参照してください。

2 必要条件

インストールを開始する前に、次のステップを完了することを推奨します。

1. [インテル® ソフトウェア開発製品レジストレーション・センター](#) に移動し、メールアドレスとシリアル番号を入力して製品を登録します。シリアル番号 (例えば、C111-12345678) は、製品を購入した際に送付されるメール内に含まれています。レジストレーション・センターの登録処理が完了すると、ライセンスの管理およびインテル® プレミアサポート Web ページへのアクセスが可能になります。
2. 製品のアクティベーション方法の 1 つとして、ライセンスファイルを使用してアクティベーションを行うことができます。インテル® ソフトウェア開発製品レジストレーション・センターからライセンスを取得するには、関連ライセンスファイルをインストールするホスト・コンピューターのホスト名とホスト ID 情報を提供する必要があります。詳細は、[特定ユーザーライセンス](#) ページ (英語) および [ノードロック・ライセンスとフローティング・ライセンス](#) ページ (英語) の情報を参照してください。

3. ログインアカウントに管理者権限がなく、インストール先のディレクトリー (例えば、/opt/intel) にシステム管理者の書き込み権限が必要な場合、システムに関連ソフトウェア・パッケージをインストールする際にシステム管理者の協力が必要になることがあります。
4. インテル® Parallel Studio XE コンポーネントをインストールするシステムで、/tmp のようなディレクトリーにステージング領域を作成することを推奨します。次に例を示します。

```
/tmp/psxe_staging_area
```

次のコマンドを使用して、インストール・パッケージの内容をこのフォルダーに展開します。

```
tar -xvzf <install_package>.tgz -C /tmp/psxe_staging_area
```

インテル® Parallel Studio XE のインストール・パッケージの命名規則は次のとおりです。

```
parallel_studio_xe_<version>[_beta][_update<#>][_online].tgz
```

ここで、<version> は製品のリリースバージョンです。次に例を示します。

```
parallel_studio_xe_2017_beta.tgz
```

5. インストールを実行する前に、利用可能なインストーラーのオプションを確認して、使用するオプションを決定します。利用可能なオプションのリストを確認するには、--help オプションを使用してインストーラーを実行するか、「[インストーラーのオプション](#)」セクションを参照してください。

必要条件のステップをすべて完了したら、インテル® Parallel Studio XE をインストールできます。

2.1 クラスター・インストールの注意事項

2.1.1 インストール方法の選択

インストールを開始する前に、使用するインストール方法を決定する必要があります。

- クラスターのすべてのノードにアクセス可能な単一ファイルサーバーへのソフトウェアのインストール。
- クラスターの各ノードにソフトウェア・コンポーネントをインストールする分散インストール。

分散インストールの場合、machines.LINUX ファイルを作成するか、既存の machines.LINUX ファイルを使用してクラスターのノード間に適切なソフトウェア・コンポーネントを配備します。machines.LINUX ファイルには、クラスターの計算ノードのリストが含まれます。1つの行に1つのホスト名を記述します。

ホスト名は、Linux* コマンド hostname で表示される結果と同じ名前にする必要があります。次の例は、クラスターが8つのノードで構成される場合の machines.LINUX ファイルの内容を示しています。

```
clusternode1
clusternode2
clusternode3
clusternode4
clusternode5
clusternode6
clusternode7
clusternode8
```

最初のカラムに # 文字が含まれている場合、上記の例のテキスト行はコメント行と見なされます。リストの最初のノードはマスターノードで、残りのノードは計算ノードです。例えば、clusternode1 および clusternode2 は、計算クラスターの2つのノード名を表します。

machines.LINUX ファイルを以前作成したステージング領域 (インストール・ファイルが含まれている場所) に格納します。格納しない場合、インストール中にこのファイルが含まれているフォルダーのパスを指定する必要があります。

2.1.2 セキュアシェル接続の確立

セキュアシェル接続は、安全でないネットワーク上の 2 つ以上のクラスターノード間で暗号化された通信チャンネルを提供するように意図されています。インストール・パッケージで提供されている Expect シェル・スクリプト・ファイル `sshconnectivity.exp` を使用して、クラスターシステム上でセキュアシェル接続を確立することができます。Expect スクリプトは対話型アプリケーションを自動化するためのツールです。`sshconnectivity.exp` を実行するには、Linux* システムに Expect ランタイム・ソフトウェアをインストールする必要があります。Expect ランタイム・ソフトウェアが正しくインストールされていることを確認するには、`which expect` と入力します。

「コマンドが見つかりません」と表示された場合は、<http://www.nist.gov/el/msid/expect.cfm> (英語) から Expect ソフトウェア・パッケージをダウンロードしてください。

`sshconnectivity.exp` コマンドの構文は次のとおりです。

```
./sshconnectivity.exp machines.LINUX
```

expect シェルスクリプトは、`machines.LINUX` ファイルに最初にリストされた名前のマスターノードで始まるクラスターの各ノードに `~/.ssh` ディレクトリーを作成するか更新します。このスクリプトは、パスワードプロンプトを 2 回表示します。スクリプトの実行が正常に完了すると、次のようなメッセージが表示されます。

```
...
*****
Node count = 4
Secure shell connectivity was established on all nodes.
...
*****
...

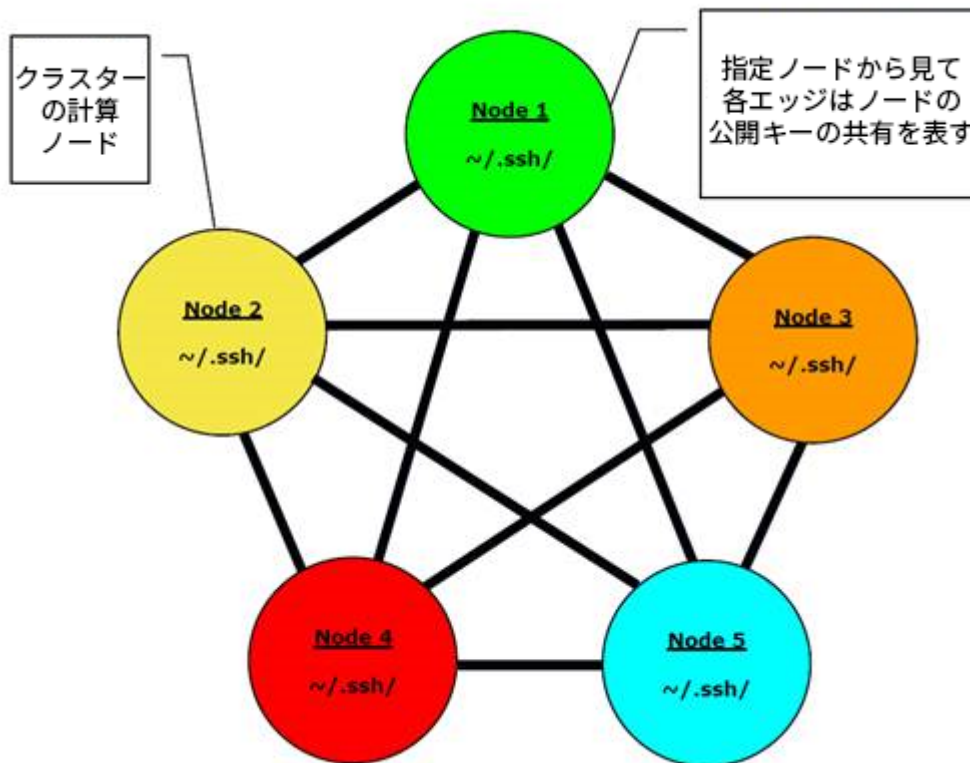
```

このスクリプトのトランザクションのログは、`/tmp/sshconnectivity.<login-name>.log` (`<login-name>` はログインのプレースホルダー) に記録されます。

`sshconnectivity.exp` シェルスクリプトは、ユーザーの home ディレクトリーに対するグループの書き込みアクセスとその他の「権限カテゴリー」を削除します。削除しない場合、セキュアシェル接続のたびにパスワードプロンプトが表示されます。

このセキュアシェル接続を確立するプロセスを、次の図に示します。この図で、頂点はクラスター計算ノードを表し、2 つの頂点間のエッジはその 2 つのクラスター計算ノードがセキュアシェル接続用の公開キーを交換していることを意味します。

`sshconnectivity.exp` スクリプトは、適切なセキュア・シェル・ユーティリティーを呼び出してクラスターの各ノードの秘密キーと公開キーを生成します。



上記の図の例では、クラスターにノード (頂点) 1 から n があると仮定しています。指定ノード i について、ノード 1 から $i - 1$ およびノード $i + 1$ から n が、ノード i から公開キーで提供されます。指定ノードのユーザーの公開キーは、計算ノードのユーザーの home ディレクトリーと関連する `~/.ssh` フォルダに格納されます。上記の図の指定ノード i には $n - 1$ のエッジがあるため、ノード i の `~/.ssh` フォルダにはクラスター中のほかの $n - 1$ ノードにより提供された $n - 1$ の公開キーが格納されます。この例は、全部で 5 つのノードがある計算クラスターを表しています。ノードを接続しているエッジは、残りの計算ノードから 4 つの公開キーを受け取っていることを示しています。指定ノードから見た場合、4 つのエッジパスで到達可能な残りのノードに指定ノードの公開キーを提供していることとなります。

例えば、クラスターの home ディレクトリーがすべてのクラスターノードで共有されている場合、すべてのノードは同じ `~/.ssh` フォルダを使用します。上記の図で示されている接続は、`~/.ssh/known_hosts` ファイルの内容を表します。

セキュアシェル接続が確立されたら、クラスターにインテル® Parallel Studio XE をインストールできます。

3 インストール

3.1 オンライン・インストーラー

オンライン・インストーラーは、インストール中に選択した製品のコンポーネントのみダウンロードしてインストールする小さなインストール・パッケージです。このプロセスを実行するにはインターネット接続が必要です。プロキシを使用している場合は、適切なプロキシ設定を行っていることを確認してください。

バージョン 2017 から、オンライン・インストーラーが製品エディション別になり、個別の .tgz パッケージが提供されるようになりました。インストールを開始するには、適切なオンライン・インストーラー・パッケージを展開し、install[_GUI].sh スクリプトを実行します。現在のマシンにインストールする場合、最初の画面で、Enter キーを押すか(コマンドライン・モード)、1 つ目のラジオボタンを選択します(GUI モード)。

インストール・ウィザードの指示に従って、製品をインストールします。コマンドライン・インストール、GUI インストール、サイレント・インストールの詳細は、この後の説明を参照してください。

3.1.1 ダウンロードされるコンテンツの格納

オンライン・インストーラーを使用する場合、選択したコンポーネントのみを含むインストール・パッケージをダウンロードして、製品をオフラインで(または別のマシンに)インストールすることもできます。

その場合、次の操作を行います。

1. インストール・スクリプトを実行します。
2. 2 と入力するか(コマンドライン・モード)、2 つ目のラジオボタンを選択し(GUI モード)、インストール・パッケージのダウンロード先を指定します。
3. インストール・ウィザードの指示に従います。
 - アプリケーションをビルドするアーキテクチャーを選択します。
 - ダウンロードするコンポーネントを選択します。

これらのステップを完了すると、インストーラーはカスタマイズされたインストール・パッケージをダウンロード・ディレクトリーにダウンロードします。

4. ダウンロード先に移動し、install[_GUI].sh スクリプトを実行してインストールを開始します。コマンドライン・インストール、GUI インストール、サイレント・インストールの詳細は、この後の説明を参照してください。

このパッケージを使用して別のマシンに製品をインストールすることもできます。ライセンスファイルを使用して製品のアクティベーションを行う場合、インターネット接続は不要です。

3.2 CLI(コマンドライン・インターフェイス)インストーラー

コマンドラインからインテル® Parallel Studio XE をインストールするには、次の操作を行います。

1. インストール・ファイルの展開先に含まれている install.sh スクリプトを実行します。**[ようこそ]** ダイアログが表示されます。Enter キーを押してインストールを続行します。
2. ソフトウェア使用許諾契約書 (EULA) の内容を読みます。インストールを続行するには、EULA を読んだ後、accept と入力して Enter を押します。
3. システムが正しく設定されている場合は、アクティベーション・ステップに進みます。正しく設定されていない場合は、**[オプションの必要条件の不足]** または **[重要な必要条件の不足]** ダイアログが表示されます。

オプションの必要条件が不足している場合は、インストールを続行できます。しかし、重要な必要条件が不足している場合は、問題を修正してインストールを再度実行する必要があります。完了したら、次のステップに進みます。

4. 次のダイアログで、使用するアクティベーション・プロセスを選択します。
 1. 既存のライセンスを使用する(デフォルト)
 2. シリアル番号を使用して製品のアクティベーションを行う
 3. 製品を評価する、または後でアクティベーションを行う(ベータリリースでは利用できません)

4. ライセンスファイルまたはインテル® Software License Manager を使用してアクティベーションを行う

オプション 4 を選択した場合、次のいずれかを選択します。

- オフラインでアクティベーションを行う
- インテル® Software License Manager を使用する

オフライン・アクティベーションを選択した場合、ライセンスファイルのフルパスを入力します。

5. インテル® ソフトウェア向上プログラムに参加するかどうかを選択します。プログラムに参加すると、インテルはインテル® ソフトウェア製品の使用状況に関する匿名情報を自動的に収集します。インテル® Software Manager を使用していつでも参加を取りやめることができます。

このダイアログはベータリリースでは利用できません。参加がデフォルトで選択されます。

6. **(Cluster Edition のみ)** 単一クラスターノードにインストールするか分散インストールを行うかを選択します。デフォルトで、単一ノード・インストールが選択されます。

分散インストールを選択すると、次のオプションが利用できます。

- 設定の種類
- クラスターノード・リストのファイル名 ([詳細](#))
- 並行インストールの数
- 共有インストール・ディレクトリーをチェック

7. 次のダイアログに、インストール・ディレクトリーとインストールするコンポーネントを含む、選択したインストール・オプションが表示されます。選択したオプションでインストールを開始するには、1 と入力します。オプションを変更する場合は、2 と入力してカスタマイズ・ダイアログに進みます。

1. アプリケーションをビルドするアーキテクチャーを選択します。インテル® 64 対応環境では、デフォルトで、インテル® 64 アーキテクチャーが選択されます。
2. 設定ダイアログの内容を確認します。このダイアログで、次の操作を行うことができます。
 - インストール・ディレクトリーの選択 (例えば、/opt/intel)
 - インストールするコンポーネントの選択
 - 詳細オプションの変更

8. インストールにオープンソース・コンポーネントが含まれている場合は、**[オープンソース・コンポーネントのインストール]** ダイアログが表示されます。

9. Enter キーを押してインストールを開始します。選択したコンポーネントがインストールされると、**[完了]** ダイアログが表示されます。

3.3 GUI (グラフィカル・ユーザー・インターフェイス) インストーラー

GUI を使用して製品をインストールするには、以下のステップを使用します。

1. インストール・ファイルの展開先に含まれている `install_GUI.sh` スクリプトを実行します。インストール・ウィンドウの左側に、インストール・プロセスの現在の段階が表示されます。
 - ソフトウェア使用許諾契約書
 - 必要条件
 - ライセンス・アクティベーション
 - インテル® ソフトウェア向上プログラム (ベータリリースでは利用できません)
 - オプション
 - インストール
 - 完了

ソフトウェア使用許諾契約書 (EULA) の内容を読み、ラジオボタンを選択します。ソフトウェア使用許諾契約書のテキストをシステムに保存するには、**[保存]** ボタンをクリックします。

[次へ] ボタンをクリックして続行します。

2. **[必要条件]** ダイアログボックスで、システムがインテル® Parallel Studio XE のインストール用に正しく設定されているかどうか確認します。オプションの必要条件が不足している場合は、インストールを続行できません。しかし、重要な必要条件が不足している場合は、続行する前に問題を修正する必要があります。完了したら、**[次へ]** ボタンをクリックします。
3. ラジオボタンを選択して、アクティベーション・オプションを選択します。
 - 既存のライセンスを使用する - 有効なライセンスファイルがある場合は、このオプションを選択します。
 - シリアル番号で製品のアクティベーションを行ってインストールする - シリアル番号がある場合は、このオプションを選択します。アクティベーションを行うにはインターネット接続が必要です。
 - 製品を評価する (シリアル番号不要) - シリアル番号がない場合、または後からアクティベーションを行う場合は、このオプションを選択します。このオプションはベータリリースでは利用できません。
 - 別のアクティベーション方法を選択する - 次のいずれかの方法を使用する場合は、このオプションを選択します。
 - オフラインでアクティベーションを行う
 - インテル® Software License Manager を使用する

完了したら、**[次へ]** をクリックして続行します。

4. **(Cluster Edition のみ)** ラジオボタンを選択して、単一クラスターノードにインストールするか複数ノードに分散インストールを行うかを選択します。クラスターのすべてのノードにインストールする場合は、クラスターのすべてのノードをリストした `machines.LINUX` ファイル ([詳細](#)) のパスを指定し、実行する並行インストールの数を入力します。
5. インテル® ソフトウェア向上プログラムに参加するかどうかを選択します。プログラムに参加すると、インテルはインテル® ソフトウェア製品の使用状況に関する匿名情報を自動的に収集します。インテル® Software Manager を使用していつでも参加を取りやめることができます。このダイアログはベータリリースでは利用できません。参加がデフォルトで選択されます。
6. **[インストール・サマリー]** で、適切なインストール・オプションを選択しているかどうかを確認します。選択を変更するには、**[カスタム・インストール]** ボタンをクリックして、次のオプションを変更します。
 - 別のインストール・ディレクトリーを選択します。
 - アプリケーションを実行するターゲット・アーキテクチャーを選択します。インテル® 64 対応環境では、デフォルトで、インテル® 64 アーキテクチャーが選択されます。
 - インストールするコンポーネントを選択します。
 - 製品コンポーネントの詳細オプションを設定します。

インストールを続行するには、**[インストール]** ボタンをクリックします。

7. インストールするオープンソース・コンポーネントのリストを確認します。**[オープンソース・コンポーネントのインストール]** ダイアログボックスに選択した内容が表示されます。
8. **[次へ]** をクリックしてインストールを開始します。選択したコンポーネントがインストールされると、**[完了]** ウィンドウが表示されます。

3.4 サイレント・インストール

入力が必要ないサイレント・インストール・モードを使用してインテル® Parallel Studio XE をインストールすることができます。

サイレントモードで製品をインストールするには、次の操作を行います。

1. 必要に応じて `silent.cfg` 設定ファイルを変更します。このファイルはインストール・パッケージに含まれています。
インストールを開始する前に、`ACCEPT_EULA` 値が `accept` に変更されていることを確認します。
2. `--silent=<path_to_silent.cfg>` オプションを使用してインストール・スクリプトを実行します。

3.4.1 対話型インストールの設定の使用

対話モード (CLI または GUI) で製品をインストールする場合、すべての入力を設定ファイルに記録して、サイレント・インストールに使用することができます。

設定ファイルを生成するには、対話型インストールを実行するときに `--duplicate=<config_file>.cfg` オプションを指定します。

指定したファイル名で設定ファイルが作成されます。このファイルをサイレント・インストールに使用できます。

4 インストール先フォルダー

インストールが正常に完了すると、インテル® Parallel Studio XE に関連するファイルがホストシステムにインストールされます。次の表は、デフォルトのインストール・フォルダーの構造を示しています。

フォルダーの内容はインストールしたインテル® Parallel Studio XE のエディションに応じて異なります。各エディション固有のフォルダーは、次のように色付きで表記されています。

- すべてのエディション
- Professional Edition および Cluster Edition
- Cluster Edition

デフォルトのインストール・フォルダーは `/opt/intel` です。

フォルダー	説明
<code>advisor</code>	インテル® Advisor の最新バージョンへのシンボリック・リンク
<code>advisor_2017</code>	インテル® Advisor 2017 の最新アップデートへのシンボリック・リンク
<code>advisor_2017.x.xx.xxxxxxx</code>	インテル® Advisor のサブディレクトリー
<code>bin</code>	インテル® Parallel Studio コンパイラーおよびライブラリーのバイナリーファイルへのシンボリック・リンクを含むサブディレクトリー
<code>clck</code>	インテル® Cluster Checker のサブディレクトリー

clck_latest	インテル® Cluster Checker の最新バージョンへのシンボリック・リンク
compilers_and_libraries	インテル® Parallel Studio XE コンパイラーおよびライブラリーの最新バージョンへのシンボリック・リンク
compilers_and_libraries_2017	インテル® Parallel Studio XE 2017 コンパイラーおよびライブラリーへのシンボリック・リンクを含むサブディレクトリー
compilers_and_libraries_2017.x.xxx	インテル® Parallel Studio XE 2017 コンパイラーおよびライブラリーの各アップデートのサブディレクトリー
daal	インテル® DAAL サブディレクトリーへのシンボリック・リンク
debugger_2017	インテル® Parallel Studio XE 2017 のデバッガーを含むサブディレクトリー
documentation_2017	インテル® Parallel Studio XE 2017 ドキュメントのサブディレクトリー
ide_support_2017	インテル® Parallel Studio XE 2017 の IDE サポートを含むサブディレクトリー
imb	インテル® MPI Benchmarks パッケージ (古いバージョン) およびシンボリック・リンク (新しいバージョン) のサブディレクトリー
impi	インテル® MPI ライブラリー・パッケージ (古いバージョン) およびシンボリック・リンク (新しいバージョン) のサブディレクトリー
include	インテル® Parallel Studio XE コンパイラーおよびライブラリーのインクルード・サブディレクトリーへのシンボリック・リンク
inspector	インテル® Inspector の最新バージョンへのシンボリック・リンク
inspector_2017	インテル® Inspector 2017 の最新アップデートへのシンボリック・リンク
inspector_2017.x.xx.xxxxxx	インテル® Inspector 2017 のサブディレクトリー
ipp	インテル® IPP サブディレクトリーへのシンボリック・リンク
ism	インテル® Software Manager のサブディレクトリー
itac	インテル® Trace Analyzer & Collector のサブディレクトリー
itac_2017	インテル® Trace Analyzer & Collector 2017 の最新アップデートへのシンボリック・リンク
itac_latest	インテル® Trace Analyzer & Collector の最新バージョンへのシンボリック・リンク

lib	インテル® Parallel Studio XE コンパイラーおよびライブラリーのサブディレクトリーへのシンボリック・リンク
licenses	ライセンスファイルを含むサブディレクトリー
man	インテル® Parallel Studio XE Composer Edition のマニュアル・サブディレクトリーへのシンボリック・リンク
mkl	インテル® MKL サブディレクトリーへのシンボリック・リンク
parallel_studio_xe_2017.x .xxx	インストールしたコンポーネントのアンインストール・スクリプトとシンボリック・リンクを含むインテル® Parallel Studio XE 2017 のサブディレクトリー
<ul style="list-style-type: none"> • bin • licensing • <component links> 	psxevars.[c]sh および sshconnectivity.exp の場所 ライセンスファイルの場所
samples_2017	インテル® Parallel Studio XE 2017 のサンプル/テストを含むサブディレクトリー
tbb	インテル® TBB サブディレクトリーへのシンボリック・リンク
vtune_amplifier_xe	インテル® VTune™ Amplifier XE の最新バージョンへのシンボリック・リンク
vtune_amplifier_xe_2017	インテル® VTune™ Amplifier XE 2017 の最新アップデートへのシンボリック・リンク
vtune_amplifier_xe_2017.x .xx.xxxxxxx	インテル® VTune™ Amplifier XE 2017 のサブディレクトリー

5 インストール後のステップ

5.1 入門ページ

インストールが完了すると、インテル® Parallel Studio XE 入門ページが表示されます。インストールされたコンポーネントに関する情報および製品の利用方法についての説明は、入門ページを参照してください。

ドキュメントは、次の場所にあります。

```
<install_dir>/documentation_2017/ja/ps2017/getstart_*.htm
```

5.2 クラスターの設定の確認

(Cluster Edition のみ)

Linux* ベースのクラスターでは、インテル® Cluster Checker を使用してクラスターの設定とパフォーマンスを確認することができます。問題が見つかった場合、インテル® Cluster Checker は問題を診断して、

推奨するクラスターの修復方法を表示します。詳細は、<install_dir>/clck/<version>/doc にあるインテル® Cluster Checker のドキュメントを参照してください。

6 製品のアンインストール

Linux* システムのインテル® Parallel Studio XE をアンインストールするには、次の場所に含まれている `uninstall.sh` または `uninstall_GUI.sh` シェルスクリプトを使用します。

```
<install-dir>/parallel_studio_xe_2017.x.xxx
```

スクリプトを起動した後、指示に従ってアンインストールを行います。

7 インストーラーのオプション

オプション	説明
<code>-h, --help</code>	ヘルプメッセージを出力します。
<code>-v, --version</code>	バージョン情報を出力します。
<code>-s, --silent <file></code>	設定ファイルの設定を使用してサイレント・インストールを実行します。
<code>-d, --duplicate <file></code>	対話型インストールを実行し、ユーザーの入力を設定ファイルに記録します。
<code>-t, --tmp-dir <folder></code>	カスタム一時フォルダーを設定します。
<code>-l, --lang</code>	ユーザー・インターフェイス言語を設定します。
<code>--user-mode</code>	現在のユーザー権限でインストールを実行します。
<code>--ignore-signature</code>	署名検証をスキップします。
<code>--ignore-cpu</code>	CPU モードチェックをスキップします。
<code>--nonrpm-db-dir <folder></code>	製品インストール・データベースを格納するディレクトリーを設定します。
<code>--SHARED_INSTALL</code>	複数ユーザー向けに、製品をネットワークマウント・ドライブまたは共有ファイルシステムにインストールします。

8 著作権と商標について

本資料は、明示されているか否かにかかわらず、また禁反言によるとよらずにかかわらず、いかなる知的財産権のライセンスも許諾するものではありません。

インテルは、明示されているか否かにかかわらず、いかなる保証もいたしません。ここにいう保証には、商品適格性、特定目的への適合性、知的財産権の非侵害性への保証、およびインテル製品の性能、取引、使用から生じるいかなる保証を含みますが、これらに限定されるものではありません。

本資料には、開発中の製品、サービスおよびプロセスについての情報が含まれています。本資料に含まれる情報は予告なく変更されることがあります。最新の予測、スケジュール、仕様、ロードマップについては、インテルの担当者までお問い合わせください。

本資料で説明されている製品およびサービスには、エラッタと呼ばれる設計上の不具合が含まれている可能性があり、公表されている仕様とは異なる動作をする場合があります。現在確認済みのエラッタについては、インテルまでお問い合わせください。

Intel、インテル、Intel ロゴ、VTune は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

* その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

© 2016 Intel Corporation.